

令和3年(2021)10月 入域観光客数概況

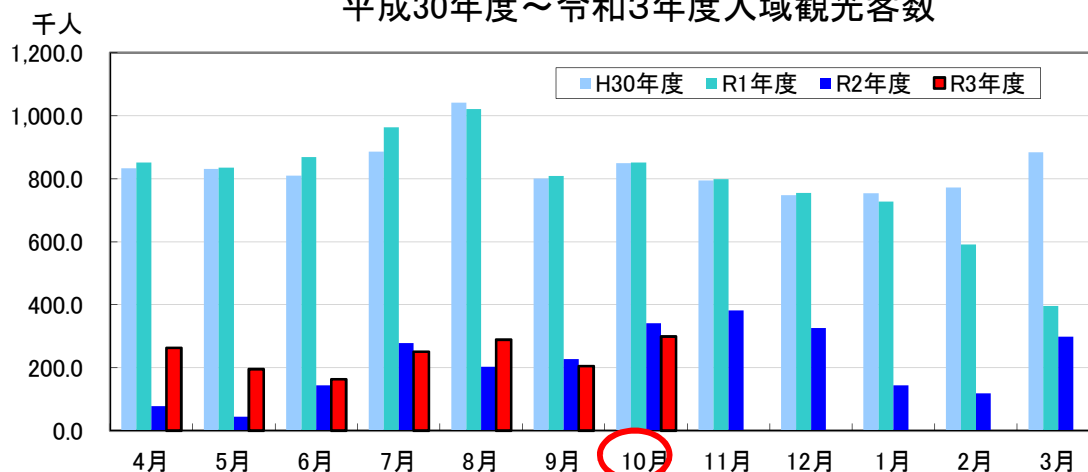
29万9,000人
 対前年(R2)同月比 △42,200人、△12.4%
 ～対前年同月比で2ヶ月連続減少～
 ※対前々年(R1)同月比 △55万2,300人、△64.9%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較)

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	0.0%	0.0%
合計	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%

平成30年度～令和3年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、Go Toトラベル事業が一時停止されていること、緊急事態宣言解除後は各地域で行動制限の段階的緩和措置がとられた影響などから、前年同月を下回った。また、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

11月は、パッケージツアーなどの実証実験の取組と併せ段階的に経済活動が再開されており、一定程度の回復が見込まれるものの、航空路線での運休・減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

10月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	153,800 人	180,900 人	△ 27,100人	△ 15.0%	51.4%
関西方面	64,700 人	73,000 人	△ 8,300人	△ 11.4%	21.6%
福岡方面	38,500 人	40,200 人	△ 1,700人	△ 4.2%	12.9%
名古屋	26,500 人	29,000 人	△ 2,500人	△ 8.6%	8.9%
その他	15,500 人	18,100 人	△ 2,600人	△ 14.4%	5.2%
合計	299,000 人	341,200 人	△ 42,200人	△ 12.4%	100.0%

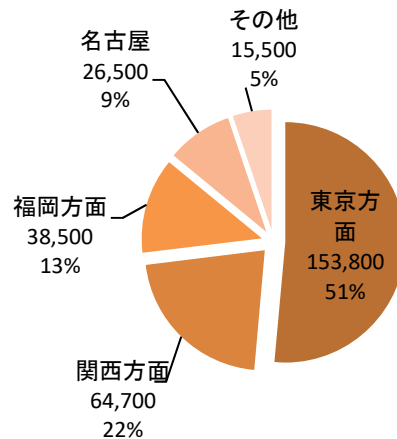
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	0 人	0人	#DIV/0!	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数	観光客数	増減率	構成比	観光客数	観光客数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)			(乗務員等含む)	(乗務員等除く)		
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も大きかった。羽田－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されていることや減便規模が拡大した影響などから、前年同月を下回った。

11月は、羽田－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

10月は、減便規模の縮小や伊丹－那覇路線での増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、関西－那覇路線などで減便が継続が適用されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

10月は、主要方面別で対前年同月比の減少率が最も小さかった。減便規模の縮小や福岡－那覇路線で増便があったものの、Go Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、福岡－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

10月は、名古屋－那覇路線などで新規就航や増便があったものの、減便規模の拡大やGo Toトラベル事業が一時停止されている影響などから、前年同月を下回った。

11月は、中部－那覇路線などで減便が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

10月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

10月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

10月は、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶、青島)－那覇の7路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

10月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、引き続きゼロとなった。

11月は、日本への入国制限措置がとられていることや、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が継続していることなどから、厳しい状況が続くと予想される。